2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月９日

上場会社名	株式会社ファンコミュニケーションズ			上場取引所	東
コード番号	2461	ＵＲＬ	https://www.fancs.com/		
代表者	（役職名）代表取締役社長		（氏名）二宮　幸司		
問合せ先責任者	（役職名）取締役副社長執行役員コーポレート本部長		（氏名）吉永　敬	ＴＥＬ	03-5766-3530
配当支払開始予定日	ー				

決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有

（百万円未満切捨て）

１．2026年12月期第３四半期の連結業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	5,180	△4.4	677	△54.7	661	△56.2	327	△67.6
2025年12月期第３四半期	5,421	5.0	1,494	40.3	1,509	40.6	1,009	1.3

（注）包括利益　2026年12月期第３四半期　343百万円（△64.6%）　2025年12月期第３四半期　972百万円（△2.3%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	4.97	4.97
2025年12月期第３四半期	15.23	15.23

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	20,493	15,678	76.4
2025年12月期	22,927	17,580	76.5

（参考）自己資本　2026年12月期第３四半期　15,658百万円　2025年12月期　17,549百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	ー	8.00	ー	19.00	27.00
2026年12月期	ー	10.50	ー		
2026年12月期（予想）				10.50	21.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2026年12月期の連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,330	3.3	1,201	△38.9	1,181	△41.4	687	△47.5	10.44

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規　1社　（社名）株式会社レイリー、除外　－社　（社名）－

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：無
②　①以外の会計方針の変更	：無
③　会計上の見積りの変更	：無
④　修正再表示	：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	66,310,429株	2025年12月期	66,310,429株
②　期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	612,600株	2025年12月期	0株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	65,857,947株	2025年12月期３Ｑ	66,248,989株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。なお、上記予想数値に関する事項は添付資料の３ページを参照してください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期の経営成績の概況…… 2
（２）当四半期の財政状態の概況…… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書 …… 6
四半期連結包括利益計算書 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（セグメント情報等の注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 9

１．経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

（１）当四半期の経営成績の概況

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費の持ち直しが続き、企業収益も改善するなど、緩やかな回復基調で推移しました。一方、2026年３月以降は中東情勢を背景とした原油価格の上昇等から消費者マインドが一時大きく落ち込み、日銀短観（2026年９月調査）においても、企業が自社の業況をどう受け止めているかを示す指標（業況判断DI）が、小売や宿泊・飲食サービスなど個人消費に関わる業種で低下するなど、消費者向けの事業を営む企業の景況感には慎重さもみられました。

このような経済状況のもと、当社グループが事業を展開するデジタルマーケティング領域におきましては、成果報酬型広告であるアフィリエイト広告や、SNS等で影響力を持つ個人を活用するインフルエンサーマーケティングは、費用対効果の高さやターゲット顧客への訴求力の観点から、引き続き多くの企業で重要なマーケティング手法として活用されております。

一方、生成AIの普及により、情報収集型の検索クエリにおいてユーザーがWebサイトへのクリックなしに回答を得るケースが増加しており、アフィリエイトメディアを含むSEO依存型のパートナーサイトへのオーガニックトラフィックは減少傾向にあります。過去にも若年層のSNSシフトによる検索行動の変化はありましたが、今般の生成AIの普及に伴う検索離れは、幅広い年齢層に及ぶ構造的な変化であり、デジタルマーケティング市場全体にとって大きな転換点となっております。このような環境変化に対し、広告主・メディア双方において、AIに引用・推薦されるコンテンツ設計（AI最適化）への対応の重要性が急速に高まっております。

当社グループは、「プロシューマー・ハピネス」のビジョンのもと、生成AIの普及に伴う事業環境の変化を新たな事業機会と捉え、当社グループ自身のAI活用を推進しながらサービスの進化に取り組んでおります。また、戦略事業においては、投資の選択と集中による収益性の改善を進めております。なお、2026年８月10日付で連結業績予想の修正及び中期経営計画の取り下げを公表しております。

この結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は5,180,339千円（前年同四半期比4.4％減）となりました。また、営業利益は677,516千円（前年同四半期比54.7％減）、経常利益は661,138千円（前年同四半期比56.2％減）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は327,028千円（前年同四半期比67.6％減）となりました。

なお、第２四半期連結会計期間に連結子会社とした株式会社レイリーについて、当第３四半期連結会計期間より損益を連結しております。

①　CPAソリューション事業

CPAソリューション事業は、主力サービスでありますアフィリエイト広告サービス「A8.net」やスマートフォンアプリ向けCPI広告サービス「A8app」等を提供しております。

当第３四半期連結累計期間においては、A8.netにおいて、特定の主要広告主における出稿予算の減少を主因に、稼働広告主数の減少、コミッション率の低下、システム利用料及びオプション広告収入の減少が重なり、前年同四半期比で減収減益となりました。コミッション率の低下は、ポイント・リワード系メディアや広告出稿により集客するメディアなど、手数料率の低い取引の比率が上昇したことによるものです。また、生成AIの普及に伴い、検索エンジン経由の成果は第３四半期に入り減少幅が拡大しており、構造的な押し下げ要因となっております。一方、新規広告主の稼働開始に向けた準備支援の強化により、新規に稼働を開始する広告主数は四半期を通じて増加しました。

この結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は3,612,402千円（前年同四半期比16.2％減）、セグメント利益は2,273,371千円（前年同四半期比22.1％減）となりました。

②　戦略事業

戦略事業は、「ファンマーケティング」「インフルエンサーマーケティング」「LINEマーケティング」「ゲームパブリッシング」等の事業を展開しております。

当第３四半期連結累計期間においては、各領域で取扱高が拡大し増収となった一方、上期を中心とした先行投資の負担により、セグメント損失は拡大しました。主な要因は、ゲームパブリッシング事業における上期の積極的な広告宣伝費の投下と、ポイント還元費用の増加による原価率の上昇です。また、LINEマーケティング領域ではCRM機能の開発投資を継続し、ファンマーケティング領域では新たな収益源の立ち上げに向けた費用が増加しました。

なお、当第３四半期連結会計期間においては、インフルエンサーマーケティング及びLINEマーケティング領域における取扱高の拡大や、ゲームパブリッシング事業における広告宣伝費の抑制等により、主要な領域で損益が前四半期から改善しております。ゲームパブリッシング事業では、上期に集中的に投下した広告宣伝費が落ち着いたことにより損失幅が縮小し、広告宣伝費を抑えるなかでも新作タイトルの投入等により利用者数は増加しました。一方、原価率の上昇が引き続き課題であり、還元条件の見直しを進めております。インフルエンサーマー

ケティング領域では大型案件や継続契約型の案件の実績化により損益が黒字に転じ、ファンマーケティング領域ではストック型収益が過去最高を更新しました。LINEマーケティング領域では成果が見込める顧客への集中を進め、事業規模の拡大と損失幅の縮小が進みました。

この結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は1,567,937千円（前年同四半期比41.3%増）、セグメント損失は642,641千円（前年同四半期はセグメント損失503,865千円）となりました。

○　報告セグメント別の売上高の内訳

セグメントの名称	2025年12月期第３四半期		2026年12月期第３四半期		2025年12月期	
	金額（千円）	構成比（%）	金額（千円）	構成比（%）	金額（千円）	構成比（%）
CPAソリューション事業	4,312,128	79.5	3,612,402	69.7	5,660,912	79.8
戦略事業	1,109,342	20.5	1,567,937	30.3	1,435,744	20.2
総売上高	5,421,471	100.0	5,180,339	100.0	7,096,657	100.0

なお、主力サービスであるアフィリエイト広告サービスにおける当第３四半期連結会計期間末の利用広告主数（稼働広告主ID数）、参加メディア数（登録パートナーサイト数等）は、下記のとおりであります。

サービス	区分	2026年12月期 第３四半期末	2025年12月期末
「A8.net（エーハチネット）」	稼働広告主ID数	2,965	3,084
	登録パートナーサイト数	3,729,574	3,622,301

（２）当四半期の財政状態の概況

（総資産）

当社グループの当第３四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ2,434,425千円減少し、20,493,048千円となりました。主な要因としましては、投資有価証券が4,314,491千円（前連結会計年度末は3,687,231千円）と627,259千円増加したこと及び有価証券が694,760千円（前連結会計年度末は393,023千円）と301,737千円増加した一方、現金及び預金が11,527,628千円（前連結会計年度末は14,694,521千円）と3,166,892千円減少したこと及び売掛金が2,308,627千円（前連結会計年度末は2,624,731千円）と316,104千円減少したことによるものであります。

（負債）

当社グループの当第３四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べ532,923千円減少し、4,814,116千円となりました。主な要因としましては、その他流動負債が809,052千円（前連結会計年度末は651,237千円）と157,814千円増加した一方、未払法人税等が1,264千円（前連結会計年度末は589,247千円）と587,982千円減少したこと及び買掛金が3,788,068千円（前連結会計年度末は3,938,419千円）と150,351千円減少したことによるものであります。

（純資産）

当社グループの当第３四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べ1,901,502千円減少し、15,678,931千円となりました。主な要因としましては、親会社株主に帰属する四半期純利益を327,028千円計上した一方、配当金の支払いにより1,949,728千円減少したこと及び自己株式を284,052千円取得したことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年８月10日に公表しました業績予想から修正は行っておりません。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2025年12月31日）	当第３四半期連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,694,521	11,527,628
売掛金	2,624,731	2,308,627
有価証券	393,023	694,760
その他	257,841	324,687
貸倒引当金	△12,621	△17,833
流動資産合計	17,957,495	14,837,869
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	42,856	38,067
工具、器具及び備品（純額）	27,509	22,812
有形固定資産合計	70,365	60,880
無形固定資産		
のれん	431,970	456,864
その他	430,718	416,150
無形固定資産合計	862,688	873,015
投資その他の資産		
投資有価証券	3,687,231	4,314,491
その他	351,443	411,731
貸倒引当金	△1,751	△4,939
投資その他の資産合計	4,036,923	4,721,283
固定資産合計	4,969,978	5,655,178
資産合計	22,927,473	20,493,048

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2025年12月31日）	当第３四半期連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,938,419	3,788,068
未払法人税等	589,247	1,264
ポイント引当金	49,607	97,565
賞与引当金	3,212	12,049
その他	651,237	809,052
流動負債合計	5,231,724	4,708,000
固定負債		
その他	115,316	106,116
固定負債合計	115,316	106,116
負債合計	5,347,040	4,814,116
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,189,569	1,189,569
資本剰余金	294,269	294,269
利益剰余金	15,952,716	14,329,644
自己株式	－	△284,052
株主資本合計	17,436,554	15,529,430
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	112,578	129,464
その他の包括利益累計額合計	112,578	129,464
新株予約権	31,300	20,035
純資産合計	17,580,433	15,678,931
負債純資産合計	22,927,473	20,493,048

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
売上高	5,421,471	5,180,339
売上原価	642,231	1,254,164
売上総利益	4,779,239	3,926,174
販売費及び一般管理費	3,284,790	3,248,657
営業利益	1,494,449	677,516
営業外収益		
受取利息	37,298	68,900
受取配当金	1,750	1,750
投資事業組合運用益	4,415	－
債務免除益	2,418	－
その他	5,286	11,244
営業外収益合計	51,170	81,894
営業外費用		
投資事業組合運用損	－	97,208
為替差損	35,940	－
その他	36	1,064
営業外費用合計	35,977	98,273
経常利益	1,509,642	661,138
特別利益		
事業譲渡益	3,000	1,200
新株予約権戻入益	22,251	12,555
その他	19,454	－
特別利益合計	44,705	13,755
特別損失		
固定資産除却損	－	6,828
投資有価証券評価損	9,994	49,999
特別損失合計	9,994	56,828
税金等調整前四半期純利益	1,544,353	618,064
法人税、住民税及び事業税	548,851	286,625
法人税等調整額	△13,748	4,411
法人税等合計	535,103	291,036
四半期純利益	1,009,250	327,028
非支配株主に帰属する四半期純利益	－	－
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,009,250	327,028

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
四半期純利益	1,009,250	327,028
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△36,537	16,886
その他の包括利益合計	△36,537	16,886
四半期包括利益	972,712	343,914
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	972,712	343,914
非支配株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自2025年１月１日　至2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	CPAソリューション事業	戦略事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,312,128	1,109,342	5,421,471	－	5,421,471
セグメント間の内部売上高又は振替高	128,071	79,895	207,966	△207,966	－
計	4,440,200	1,189,238	5,629,438	△207,966	5,421,471
セグメント利益又は損失（△）	2,916,500	△503,865	2,412,635	△918,186	1,494,449

（注）１．セグメント利益又は損失（△）の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自2026年１月１日　至2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	CPAソリューション事業	戦略事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,612,402	1,567,937	5,180,339	－	5,180,339
セグメント間の内部売上高又は振替高	57,401	138,983	196,385	△196,385	－
計	3,669,804	1,706,921	5,376,725	△196,385	5,180,339
セグメント利益又は損失（△）	2,273,371	△642,641	1,630,729	△953,212	677,516

（注）１．セグメント利益又は損失（△）の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

当第３四半期連結累計期間において、株式会社レイリーを子会社化したことに伴い、「戦略事業」においてのれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は123,641千円であります。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

（自己株式の取得及び処分）

当社は、2026年２月９日開催の取締役会において、会社法第165条第３項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づく自己株式の取得をすることを決議し、自己株式654,600株の取得を行いました。

また、2026年２月９日開催の取締役会及び2026年２月16日開催の取締役会において、当社従業員持株会に対する確定期間型譲渡制限付株式としての第三者割当による自己株式の処分を決議し、自己株式39,400株の処分を行いました。

さらに、2026年３月25日開催の取締役会において、当社役員に対する確定期間型譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分を決議し、自己株式3,000株の処分を行いました。

この結果、当第３四半期連結累計期間において自己株式が284,052千円増加し、当第３四半期連結会計期間末において自己株式が284,052千円となっております。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	68,826千円	103,142千円
のれんの償却額	92,565	98,747